

## R Cカーの京商、新生銀系ファンド傘下で再建

2018/4/16 0:24 | 日本経済新聞 電子版

**新生銀行**系の投資ファンドがラジオコントロールカー（RCカー）に強い老舗玩具メーカー、京商（神奈川県厚木市）の全株式を取得した。京商は無線操縦の玩具で知名度が高いが、国内販売の減少で業績が低迷している。ファンドは成長市場のアジアの販路や顧客層の拡大を後押しして経営を再建する。

新生銀行グループの投資会社、新生企業投資（東京・中央）などが設立した投資ファンドが全株式を取得した。株式などの取得額は10億円程度とみられる。コンサルティングを手掛けるゴードン・ブラザーズ・ジャパン（東京・千代田）が協力しており投資ファンドに出資している。京商の鈴木明久社長は顧問に退き渡辺克美常務が社長に就任。ファンドから5人の社外取締役を派遣した。

京商は1963年創業。RCカーの世界レースにも使う価格帯が1万～6万円程度の玩具の企画・開発を手掛けている。この分野で世界シェアは2割前後を占める。国内市場の縮小や投資戦略の失敗で最盛期に150億円だった年間売上高は30億円に減少し、営業利益は赤字が続いている。

一般的な玩具を含めた世界の市場企業は現在、8兆円規模。アジアを中心に市場が拡大し、2020年には10兆円を超えると思われる。このうち京商が手掛けるような無線操縦などの玩具市場は2割程度とみられる。

新生銀行系のファンドはアジアやドイツ、米国を今後の重点地域と位置づけている。販売代理店の拡充や地域に合った商品の投入など販売手法も支援する。初心者向けに価格を抑えた商品を開発して事業領域を広げ、海外市場を中心に売上高で毎年7%成長を目指す。



京商が手掛けるラジオコントロールカー

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。